

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

よこはま地域福祉研究センター

②施設・事業所情報

名称：パレット保育園・大豆戸	種別：認可保育所
代表者氏名：太田小百合	定員（利用人数）： 60（66）名
所在地： 横浜市港北区大豆戸町552-1	
TEL：045-438-3149	ホームページ： https://p-hoiku.com/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2015年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社 理究	
職員数	常勤職員 15名 非常勤職員 6名
専門職員	施設長 1名 保育士 15名
	栄養士 2名 調理員 2名
	事務 1名
施設・設備の概要	(居室数) (設備等)
	6室 調理室、事務室、更衣室、相談室、エレベーター、多機能トイレ、園庭など

③理念・基本方針

ひとりひとりを「大きな家族」の一員として認め、役割を認識させ、愛情を持って育てます。
ひとりひとりの子どもを見極め、発達段階に応じ、「感性・知性・体力を培う」三位一体のバランス保育・教育を信条として育てます。
ひとりひとりが意欲的な生命力を発揮できるよう「自立と自尊と自律」の精神を大切に育てます。

④施設・事業所の特徴的な取組

最寄り駅が菊名駅・新横浜駅という都心部へのアクセスも便利な立地にある住宅街に囲まれた保育園です。近くに様々な公園があり、お天気の良い日はお散歩を楽しみながら遊びに行きます。園舎は2階建てで園庭があります。
安心安全システムとして保育園向けアプリを導入し、家庭との連携ツールやICカードで入退室できます。また、毎月避難訓練を実施、職員は救命救急訓練を受けています。
マニュアルを完備し、業務水準の統一化をしています。
能力開発プログラムでは子ども達の能力を最大限に伸ばすプログラムとして「コトバの森・パレット学習タイム・運動プログラム・小学校準備プログラム」など取り組んでいます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2025年5月20日（契約日） ～ 2025年12月22日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2 回（ 2022年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

◆保育士は一人ひとりの子どもに寄り添う丁寧な保育を実践しています

保育士は、一人ひとりにゆっくりと優しく声をかけ、安心してすごせるよう対応しています。乳児は泣いていれば声をかけ、抱っこを求められれば出来る限り応じる等、子どもの気持ちに寄り添う保育を実践しています。また、子どもの自我の育ちや自己主張を受け止め、じっくり丁寧に関わっています。子どもの表情や仕草から子どもの興味・関心を見逃さないように保育にあたっています。保育士は、個々の子どもの状況を把握し、情報共有することで担任以外の保育士も一人ひとり子どもに寄り添った保育ができるよう努めています。また、幼児クラスでは自分で考えて行動する自主性を尊重していて、保育活動でも子どもの意向を確認して進めています。さらに、施設長は、子どもが互いを尊重するよう、園で共に育つ中で特別でなく当たり前のようにそれぞれの個性を受け入れられることを大切にしていきたいと考えています。

◆「大きな家族」の一員として、子どもたちは子ども同士の交わりで成長した姿を学びながら育っています

保育理念の「大きな家族」を具現化すべく、幼児クラスは毎日、朝の会までの自由時間にクラスの間仕切りを開放して3部屋を行き来して異年齢で過ごします。玩具や教材は好きな時に好きなものを出して自由に使える環境の中、年齢に関係なく自分の好みで居場所を見つけ、友だちと協力し、時には競い合うなど活動しています。また、保育士は意図的に異年齢で活動する場面を設定しています。例えば2歳児と3歳児で互いの部屋を訪問して一緒に過ごすことで3歳児は少し前の自分の姿を思い出し、出来るようになった自分を認め、2歳児は次年度の不安を無くし期待を持てる機会を作っています。5歳児と乳児との関わりでは幼い子どもへの思いやりの気持ちと年長者への憧れの気持ちを育てています。1・2歳児の散歩では、横断歩道で2歳児が手を挙げると1歳児も手を挙げ、公園で「よーいドン」と2歳児が走ると1歳児も追いかけるなど活動が活発になっています。このような環境の日々の積み重ねの中で、子どもたちは自分の成長していく姿を身近に感じながら、「大きな家族」での生活を楽しくしています。

◆子どもと地域との交流を通して園の存在を知ってもらえるよう積極的な地域活動を期待します

園は地域との関わり方の基本的な考え方として「地域に開かれた施設として、園児および園と地域の交流の充実を図ることを目的とする」としています。散歩では地域の人と挨拶を交わし、言葉をかけてもらうなどの光景が見受けられました。しかしながら、地域の関係機関・団体との連携や民生委員・児童委員などとの定期的な会議への参加や連携がこれからの課題となっています。地域活動を通して、園の存在を知ってもらい、子どもたちが地域の中で育っていくためにも、世代間交流など地域交流・地域活動に期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回第三者評価を受信するにあたり職員と改めて日頃の保育についてや園内環境について話し合い見つめ直すことができました。園運営の課題点や保護者アンケートにより保護者のニーズも知ることができとても良い機会となりました。

一人ひとりに寄り添う保育、子ども達の気持ちを受け止め共感し、主体性を認めていく保育はこれからも継続していきます。今後は保育所の専門性を活かした地域・社会への貢献や連携にも力をいれ協同となる活動を発信し、更なる発展を目指していき

いと思います。今回の評価を真摯に受け止め園全体で質の向上に努めてまいります。お忙しい中アンケートにご協力いただいた保護者の皆様には、心より感謝申し上げます。また、評価機関、調査員の方々には、丁寧に細かく評価していただき、ありがとうございました。

- ⑧第三者評価結果
別紙2のとおり